広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部　第56号　2007　235－239

日本語とトルコ語の「ウチ・ソト」関係の対照研究

アクドーアン　プナル

（2007年10月４日受理）

A Contrastive Study of the *Uchi-soto* Relationship in Japanese and Turkish

Akdogan Pınar

Abstract. We have performed a contrastive study of the *uchi-soto* relationship in Japanese and Turkish, and we have found the similarities and dissimilarities between the two languages. Thus, both in Japanese and in Turkish, when speaking about an 'in-group' (*uchi*) person to an 'out-group' (*soto*) person,the exalting honourific speech (*sonkeigo*) cannot be used. The two languages are similar in this respect, but the extent of the in-group, which conditions the usage of polite speech, is different. In Japanese, the in-group includes not only the family of the speaker and his/her intimates, but also the members of the same company. Even if the member of the same company is a superior, the exalting honourific speech cannot be used. In contrast, in Turkish the in-group is limited to family and intimates of the speaker. When speaking to outsiders about one's superiors of the same company, the exalting honourific speech is used.

Key words: Japanese, Turkish, contrastive study, *keigo*, *uchi-soto* relationship
キーワード：日本語，トルコ語，対照研究，敬語，ウチ・ソト関係

１．はじめに

日本語の敬語選択の重要な要因として「ウチ・ソト関係」を指摘することができる。日本語の場合は，敬語選択の際には，誰について話しているかということのほかに，誰に向かって話しているかということを考慮しなければならない。聞き手によっては，普段は敬語を使って話している人物について話す場合にも，その話題の人物に敬語を使わない場合がある。

日本語のこの独特な特徴は，話し手と話題の人物との関係のみで敬語表現が決定されている言語を母語としている日本語学習者にとって困難を感じるところである。

トルコ語も，一定の対象において，どのような人称の場合にも，またどのような言語的場面においても，常に一定の敬語で表現されるという敬語体系と持っていると指摘されている（金田一，1969）。筆者は，トルコ人日本語学習者を対象にして，アンケート調査をしている。その結果として，トルコ人日本語学習者には日本語の「ウチ・ソト関係」にもとづく敬語使用を理解することが困難であることを報告している（Akdogan，2006）。

本研究では，日本語とトルコ語の「ウチ・ソト関係」に注目し，両言語の「ウチ・ソト関係」の相違点が，トルコ人日本語学習者の敬語習得にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。

２．日本語の敬語の歴史的な流れ

金田一（1969）は，日本語の敬語発達の段階として，(1) タブー（禁忌）の時代，(2) 絶対敬語の時代，(3) 相対敬語の時代の三段階があることを指摘している。以下でそれらについて詳細に見ていきたい。

2.1　タブーの時代

まず，「タブー」について，金田一（1969）は，言語的禁忌で敬語の起源となったと述べている。また，女性語とも深いかかわりをもっているという。辻村

（1977）は，日本語の敬語は古代人の神（人智人力をこえた自然界の存在）に対する畏敬の気持ちに基づいた言葉のタブーや言霊思想から生まれたものであると指摘している。すなわち，原始，人々は神について，これをあらわに口にすることを怖れ，遠まわしに婉曲に表現すると共に，それを替えることによって幸のもたらされることを信じ，美しい言葉を並べたてた。そしてそれが後に敬語となったということである（p.27）。

2.2　絶対敬語の時代

金田一（1947）は，「絶対敬語」をどんな人称の場合にも，また，どんな言語的場面においても，常に一定の敬語で表現されるという敬語であると指摘している。日本語の古代のいわゆる「自敬表現」も第一人称に敬語形が用いられるのは「絶対敬語」の特色であるとされる。

安（1981）は，古代日本語は，現代語と違って，話題にのぼっている目上の家族や主人に対しても敬語を用いることがあり，相手が，話し手や話題の人物より上位であることがはっきりする場合にも，話題の人物と話し手が主従関係にあれば，敬語を用いて表現することが多かったと指摘している（p.90）。

このような現象は，社外の人物を相手として，社長に対する敬語を使用するということ自体を誤用であるとする現代日本語とは大きな相違があると言える。古代日本語では，主従関係が場面に優先し，敬語の使用を規制していたのである。

以上のことをまとめると，古代日本語には，自敬表現とか，場面にかかわりなく，話題の人物と話し手との関係によって用いられた敬語があり，その性格上，「絶対敬語」と規定され得る。その反面，自敬表現がなくなり，場面による敬語の使用が優勢になった現代日本語の敬語は「相対敬語」であると言える。「絶対敬語」から「相対敬語」への転換は日本語の敬語史の一つの特徴である。

2.3　相対敬語の時代

相対敬語は，人称や場面によって言葉づかいを変える敬語である。金田一（1969）は，「相対敬語」は現代日本語の敬語で，日本語の特徴的なものであると指摘している。

辻村（1997）も，日本語の敬語は「相対的な敬語」の特徴を持っていると指摘することができると述べている。つまり，話し手は，話題の人物との関係のみから言えば，当然敬語を用いるべき人物について，聞き手のいかんによって敬語を用いたり用いなかったりするという。

菊池（1977）は，聞き手との関係次第で，つまり，どちらの〈領域〉に属するかによって待遇の仕方が相対的に変化する現代の標準的な敬語の使い方は，〈相対敬語〉であると指摘している。〈絶対敬語／相対敬語〉とは，敬語の種類の区別ではなく，敬語の〈適用〉の仕方の違いであるという（p.134）。

金田一（2004）は，日本語の「相対的敬語」の特徴を表す例として次のような例を挙げている。たとえば，「おとうさん」について，父に直接向かって言う場合には，「おとうさま，いらっしゃいますか」ということができる。また相手が母親ならば「おとうさんはいらっしゃるようですよ」と言うことができる。ところが，相手が自分の社長である場合には，そのような表現を使うことができない。社長に対しては，自分の父親を尊敬語で表すことはできず「父も行くと申しております」というのが正しい言い方になる。

また，社長の動作について，ほかの会社の人に言う場合には，社長も自分の身内になるため，もし社長が鈴木という苗字ならば「鈴木が申しておりました」となるが，いつでも自分の社長に対しては敬語を使わない方がいいかと言うとそうではない。社長に他の社の人から電話がかかってきた場合，「今，社長は・・・」とか「鈴木は・・・」と言ってもかまわないが，電話の相手が社長の奥さんであったりすると，「鈴木が」とは言えない。この場合には，「社長さまは」ということになる。つまり，表現の選択に際して，受話器をとった途端に，この相手はだれであるか判断しなければならず，これを金田一（2004）は敬語の一番難しい点であると指摘している。

以上見てきたように，現代日本語では，話し手は自分側と意識する人物に対しては，他人側に属する人が相手である場合には尊敬語を使わないという規則がある。つまり，外側に属する人が相手である場合には，身内への尊敬語の使用を控え，謙譲語を使うのが現代の日本語の特徴である。

3．トルコ語の敬語

以下の考察は，まず3.1でトルコ語の尊敬語を考察する。次に3.2でトルコ語の謙譲語について見ていく。最後に3.3では，トルコ語の「ウチ・ソト」関係とその範囲を考察し，日本語の「ウチ・ソト」関係とどのようなところが異なっているかを明らかにする。

3.1　尊敬語

トルコ語でも，敬語が日常頻繁に使われている。自分より目上の人と話すときや，恩恵を受けている人と

話すとき，自分より年上の人と話すときなどには敬語を使ってコミュニケーションがとられる。トルコ語の場合，聞き手や話題の人物を高めることによって敬意を表すことが多く，自分や自分側を低めて聞き手や話題の人物を高めるということは希である。トルコ語の尊敬語の特徴は，聞き手や話題の人物が単数であっても，動詞に複数接尾辞を付けることによって，相手に尊敬の気持ちを表す点である。例えば，次のような場合である[1)]。

(1) Nere-ye gid-iyor-su-n ？
　どこ -Dat 行く -Pres-2Sg
（（あなたは）どこへ行くのか？）
（sun は２人称単数形を表す）

(2) Nere-ye gid-iyor-sun-uz ？
　どこ -Dat 行く -Pres-2Pl
（（あなたは）どこへいらっしゃいますか？）
（sun-uz は２人称複数形を表す）

「Nereye gidiyorsun ？」は日本語の「どこへ行くのか」に当たる。２人称単数形の敬意を含まない表現である。「Nereye gidiyorsunuz ？」は日本語の「どこへいらっしゃいますか」に当たる。聞き手が２人称単数であっても，２人称複数の接尾辞を用いることによって，話し手は聞き手に尊敬の気持ちを表すことができる。主語が２人称単数形の場合，述語に「iz，uz，ız」という２人称複数形の接尾辞をつけることによって敬意を表す表現となる。そして，話題の人物が３人称者単数の場合，複数形を表す３人称の接尾辞「ler，lar」を用いることによって，話し手が話題の人物に尊敬の念を表すことができる。以下に具体例を挙げる。

(3) Müdür Bey yarın A otel-inde kal-a-cak.
　社長さん　あした　A ホテル -Loc 泊まる -Fut-3Sg
（社長さんはあした A ホテルに泊まります。）

表1 トルコ語の尊敬動詞

	尊敬動詞
尊敬語	teşrif et-（いらっしゃる）
	ihsan et-（くださる） bahşet-（くださる）
	lütfet-（くださる） （お許しくださる） （おっしゃる）
	buyur-（おっしゃる） （いらっしゃる） （お取りになる）

(4) Müdür Bey yarın A otel-inde kal-acak-lar.
　社長さん　あした A ホテル -Loc 泊まる -Fut-3Pl
（社長さんはあした A ホテルに お泊りになります。

トルコ語にも日本語のように「いらっしゃる」，「ご覧になる」，「召し上がる」のような尊敬動詞がある。杉山（2000）はトルコ語の尊敬動詞として次のようなものを指摘している。

表１で示しているトルコ語の尊敬動詞は聞き手や話題の人物の行為・性質に対して，それを上位のものとして待遇する機能を持っている。

3.2 謙譲語

トルコ語には謙譲表現がいくつかあるが，現在では使用されることが少ない。松谷（1991）は，トルコ語の謙譲表現について次のように述べている。「現代トルコ語の日常会話では，若干の単語を除いては一般的に謙譲語が使われることはきわめて稀であり，特に若い世代ではほとんど使われなくなってきている。（p.202）

トルコ語には，１人称単数形（ben）の謙譲語として「bendeniz」「fakir」「acizleri」といった表現や自分の家の謙譲語として使われる「fakirhane」などの表現があるが，松谷（1991）が指摘しているように特に話し言葉においてこれらの使用が少なくなっている。そして，トルコ語にも日本語のように動作主体を低め，動作の受け手を高める働きをする一部の謙譲動詞が存在するが，若い世代ではこれらの謙譲動詞が使われなくなってきている。トルコ語の謙譲動詞について，杉山（2000）は次のようなものを挙げている。

表2 トルコ語の謙譲動詞

	謙譲動詞
謙譲語	takdim et-（差し上げる） （ご紹介する）
	arz et-（差しあげる） （申し上げる）
	rica et-（お願いする） istirham et-（お願いする）
	rahatsız etmek-（伺う）
	sun-（さしあげる） （お送りする） （お見せする）

3.3 トルコ語のウチ・ソト関係とその範囲

ここでは，トルコ語の「ウチ・ソト」関係について見る。金田一（1969）は，トルコ語の敬語を「絶対敬

語」であると指摘している。「絶対敬語」とは，話し手が，自分側と意識する人物に対して，どのような人称や言語的な場面においても，常に一定の敬語を用いるものである。

トルコ語は「絶対敬語」であると言われるが，筆者はトルコ語の敬語には相対的な側面もあると考える。トルコ語の場合は，日本語と同じように家族や親戚は「身内」として認識される。これらの「身内」と話すとき，「身内」に対しては，尊敬語を使うことができるが，「身内」について「他人側・外部」に属する相手と話すときに敬語表現が用いられることは稀である。これらの「身内」について「他人側・外部」に属する相手に話すときは一部の謙譲動詞や普通体を使うことが多い。

トルコ語の場合，話し手は自分の「祖父」に対して次のように尊敬語を使うことができる。

(5) Dede-ciğ-im ilac-ın-ızı　içtin-iz-mi ？
祖父 -Dat- Poss1Sg 薬 -Poss2Pl 飲む - Int-2Pl
（おじい様お薬をお飲みになりましたか？）

身内の聞き手が話し手より上位であることがはっきりする場合，話し手は上の例のように身内の聞き手に対して尊敬語を用いることができる。一方，身内の人について外の人に話すときには尊敬語を使うことはできない。身内について外の人に話すときには，次のように表現される。

(6) ＊ Dede-m　şuanda dışarı-da-lar.
祖父 -Poss1Sg　今　外出 -Pres-2Pl
（祖父は今外出していらっしゃいます。）

(7) Dede-m　şuanda dışarı-da.
祖父 -Poss1S　今　外出 -Pres
（祖父は今外出しています。）

(8) ＊ Anne-m Japonya-ya gel-ecek-ler.
母 -Poss1Sg　日本 -Dat 来る -Fut-2Pl
（母は日本にいらっしゃいます。）

(9) Anne-m Japonya-ya gel-ecek.
母 -Poss1Sg 日本 -Dat　来る -Fut
（母は日本に来ます。）

上記の例のように，「他人側・外部」に属する人が相手である場合には，上位であるという意識を持っていても，自分の祖父や母といった身内に対しては尊敬語が使われない。日本語の場合は「祖父は外出しております。」や「母は日本に参ります。」のように謙譲語の使用が求められることが多いが，トルコ語の場合は，謙譲語が発達していないため，「Dedem şu anda dışarıda」や「Annem Japonyaya gelecek.」といった普通体が用いられることが多い。

筆者は，トルコ語の「身内」の範囲は家族や親戚に限られている点で日本語の場合と異なると考えている。トルコ語では，社内の人物について社外の人と話す時でも，社内の人物が話し手より目上である場合には尊敬語を使うことが求められる。具体例を挙げると，会社の外から A 部長に電話がかかってきたとき，電話に出た社員の B が電話の相手に「A 部長は外出している」ことを告げる場面で，トルコ語では次のような表現が用いられる。

(10) A Müdür şuanda　dışarı-da-lar.
A 社長　今　外出 -Pres-2Pl
（A 部長は今出かけていらっしゃいます。）

(11) Ali bey bugün izinliler.
アリさん　今日　休む -Pres-2Pl
（アリさんは今日休んでいらっしゃいます）

トルコ語の場合，聞き手が外部の人であっても，話題の人物が目上である場合は，「出かける」という動詞に2人称複数接尾辞を付けるという尊敬語が使われなければならない。このようにトルコ語においては，会社の人は「身内」であると意識されないため，日本語とは異なる敬語使用が行われる。さらに次の例を見てみよう。

(12) Ali bey　Japonya-ya gel-ecek-ler.
アリさん 日本 -Dat　来る -Fut-2Pl
（アリさんは日本にいらっしゃいます。）

(13) Alibey Japonya-yateşrifed-ecek-ler.
アリさん 日本 -Da おいでになる - Fut-2Pl
（アリさんは日本においでになります。）

(14) ＊ Ali Japonya-ya rahatsız edecek.
アリ　日本 -Dat　参る -Fut-2Pl
（アリは日本に参ります。）

会社の上司であるアリについて，「他人側・外部」に話すときは，話題の人物の動作と呼称に尊敬語が使われる。上の例で言えば，話題の人物を日本語の「さん」に相当する「bey」と呼び，話題の人物の動作を日本語の尊敬動詞である「いらっしゃる」や「おいでになる」に相当する「gelecekler」や「teşrif edecekler」を使って表現する。社内の目上に人について，「他人側・外部」に話すときは，(14) のように謙譲動詞である「rahatsız edecek」を使って動作主体であるアリを低めることはできない。これらの謙譲表現を使うことによって相手にかえって失礼な印象を与える可能性が大きい。会社の上司であるアリが聞き手である場合にも同様に動詞と呼称の両方に尊敬語が用いられる。

(15) Ali bey yemeğ-iniz-i yedin-iz-mi?
アリさんご飯 -Poss2Pl- 食べる - Past-2Pl
（アリさん昼ごはんを召し上がりましたか？）

上の例では，社内の上位の人である「アリ」に対して「さん」という尊敬呼称が用いられ，「yemek（食べる）」という動詞に２人称複数形の接尾辞である「iz」をつけることによって敬意を表す表現となる。

トルコ語の場合，話題の人物が「家族」である場合，外部の人に対して話すときには，尊敬表現が使われない。一方，話題の人物が，会社の上位の人である場合は，外部の人に対して話すときにも尊敬語が使われる。即ち，この場合は，聞き手や場面に関わりなく，話し手と話題の人物との関係のみで敬語が決定されると言える。

以上，見てきたように，トルコ語の敬語においては，話題の人物が家族である場合，外の人と話すときには尊敬語が使われない。

４．まとめと今後の課題

本研究では，両言語における「ウチ・ソソト」関係について考察を行った。その結果，日本語においてもトルコ語においても「身内」について「他人側・外部」に属する相手に話すときには，尊敬語を使うことができないということがわかった。この点で両言語は共通しているが，敬語の使い分けに関わる「身内」の領域は異なっている。日本語の場合，「身内」の領域には話し手の家族や親戚だけでなく社内の人物も含まれ，社内の人物について，社外の人に話すときは，社内の人物が目上であっても尊敬語を用いることができない。一方，トルコ語の場合，「身内」は家族や親戚に限られており，自分の会社の目上の者について，社外の人に話すときには，尊敬語が用いられる。

これまでトルコ語の敬語は「絶対敬語」であり，どのような人称や言語的な場面においても，常に一定の敬語が用いられると指摘されてきた。しかしながら，目上の家族や親戚といった「身内」について外部の人に話すときには尊敬語が使われないということは，トルコ語の敬語が相対的な側面をもっていることを示している。

本研究では日本語とトルコ語の「ウチ・ソト」関係について対照研究を行い，両者の共通点と相違点を明らかにした。それを通じてこれまで指摘されることのなかったトルコ語の「ウチ・ソト」関係の特徴つまり相対的な側面も明らかになった。本研究の結果から，トルコ人日本語学習者にとって，日本語の「ウチ・ソト」関係の領域が異なることが敬語習得の上で大きな困難点であることが予測される。今後は，これらの成果を踏まえて，両言語における敬語の相違点がトルコ人日本語学習者の敬語習得にどのような影響を及ぼすかについて具体的に見ていきたい。

【参考文献】

菊地康人（1997）『敬語』角川書店
金田一京助（1969）『日本語の敬語』角川新書
金田一春彦（2004）『金田一春彦著作集　第三巻』玉川大学出版部
杉山アイシェヌール（2000）「トルコ語の語動詞についての基礎的研究」『東京大学語学論集』19 pp.227-246
辻村敏樹（1977）「日本語の敬語の構造と特色」『岩波講座日本語4敬語』大野晋・柴田編　pp.45-94 岩波書店
松谷浩尚（1991）『中級トルコ語詳解』　大学書林
Akdogan Pınar（2006）『日本語の敬語とトルコ語の敬語の対照研究―トルコ人日本語学習者を対象とした敬語教育のために―』（修士論文）

【注】

１）略号については参考資料を参照

【参考資料】

Abl: Ablative	Loc: Locative
Acc: Accusative	Neg: Negative
Cond: Conditional	Fut: Future
Dat: Dative	Opt: Optative
FPart: Future Participle	Past: Past
Prog: Progressive	Pl: Plural
Inf: Infinitive	Pot; Potential
Inst: Instrumental	Pres: Present
Past: Indirect Past	1: First Person
2: Second Person	3: Third Person

（主任指導教員　町　博光）